

3 別海町立西春別小学校の校訓及び教育目標

校 訓

明るく 清く 逞しく

教育目標

知 よく考え、表現する子
徳 心豊かで、思いやりのある子
体 進んでやりぬく、たくましい子

4 めざす子ども像

意欲的に学び、自分の考えたことをはっきり話すことができる子
人の気持ちや立場を理解し、励まし合い助け合うことができる子
困難に立ち向かう強い心と身体を持ち、より良い生活習慣を身につけることができる子

5 学校経営方針

- (1) 目指す子ども像の達成を目指し、全教職員が協働の意識を持ち、活気と行動力あふれる職員集団を目指す。
- (2) 「生きる力」の育成を目指し創意に満ちた教育課程の編成・実施に努める。
- (3) 確かな学力の育成を目指し、教員自ら授業力を高め、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力（思考力、判断力、表現力等）を育む教育実践に努める。
- (4) 児童・教職員一人一人が存在感、有用感の持てる学校づくりに努める。
- (5) 地域の特徴を生かし、地域に支えられる学校づくりに努める。

6 経営目標

- (1) 学校の課題解決に向けた研修の充実を図る。
- (2) 創意と工夫に満ちた教育課程の編成・実施・改善に努める。
- (3) 児童一人一人の良さを活かした学級経営の充実を図る。
- (4) 児童の可能性を伸ばす特別支援教育の充実を図る。
- (5) 落ち着きを感じさせ豊かな心を育む教育環境の整備に努める。
- (6) 家庭や地域社会との連携を深める教育活動の推進に努める。
- (7) 児童・教職員の生命を守る危機管理に努める。
- (8) 機能的な組織運営に努める。

7 具体的な取り組み

- (1) 確かな学力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用力の向上を図る学習指導を推進する。
- (2) 人を思いやる豊かな心を育てる道徳教育を進める。
- (3) 集団活動の特質を活かし、児童一人一人の豊かな人間性や社会性を育てる特別活動の充実に努める。
- (4) 「児童に育成したい力」を踏まえ、地域の実態や学校の特性を活かした総合的な学習の時間を推進する。
- (5) 英語でのコミュニケーション体験を通して、言語や文化について理解を深める外国語活動を推進する。
- (6) 自分に気付き、未来を築く「キャリア教育」を意識して教育課程を推進する。
- (7) 児童一人一人の存在を大切にする生徒指導を推進する。
- (8) 生命を尊び、心身を鍛える態度を育てる健康安全指導を推進する。
- (9) 保・小・中の校種間連携を推進し、スムーズな接続を図る。
- (10) 分掌において、学校経営がスムーズに行われるよう、業務推進の工夫に努める。
- (11) 地域の学校、開かれた学校として工夫に務める。
- (12) 法令、通達、指示、通知に基づいた、服務に務める

8 今年度の重点施策

「学校一丸となって 共通理解、共通行動を基本とした複式学習指導の標準的指導を確立し、基礎基本をしっかりと身につけ、心豊かでしなやかさを持った子どもの育成」

複式学習指導のありかたの追求と実践

- (1) 複式学級指導を中心とした校内研修の推進
- (2) 単式から複式学習へのスムーズな移行を見据えた指導（単式での複式学習的指導）

基礎基本の定着のために

- (1) 各教科の発達段階において求められる「基礎基本」は何かを理解した取り組みを実践
① 1時間の授業の中で「何を学ぶのか」「何をできるようにするのか」「何を気づかせるのか」を明確にした授業を目指す。
② 授業評価を適宜取り入れ、授業改善に生かす。 など

心豊かでしなやかさを育てるために

- (1) 適度な体験的な学習や、外部講師を積極的に活用した学習を実施。さらに、事前事後学習の内容の充実を図り、目に見える「まとめ」を行う。 など

一丸となって歩むために

- (1) 全クラスで共通行動として取り組む内容を策定し、共通行動を確認する。 など
- (2) 保育園児童と小学生、中学生との小学生との交流を図る。 など

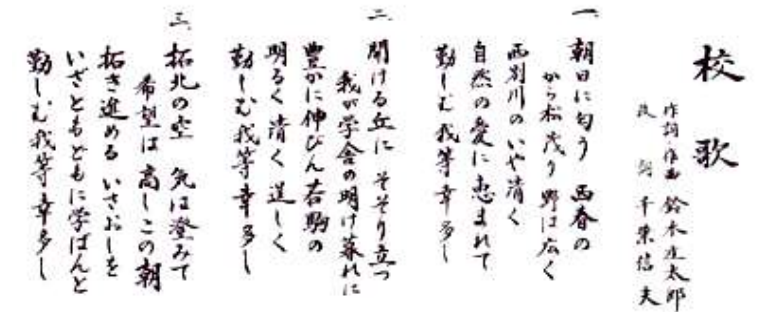
教師力向上のために

- (1) 研修して「なるほど」と改善をすべきところがわかる研修の工夫 など

平成 27 年度 別海町立西春別小学校



学校要覧



別海町立西春別小学校

〒088-2575 北海道野付郡別海町西春別宮園町 50 番地

電話 0153-77-2364 fax 0153-77-2540

1 西春別小学校の沿革

北海道拓殖計画に基づき、昭和5年に市街地が、昭和6年に原野が区画され、市街地は昭和6年から、原野は昭和7年から入植が始まった。

昭和7年には約30戸が市街地を形成し、原野にも61戸の入植をみた。その子弟は、一時的に柏野尋常小学校に入学したが、通学区域が広大なため、昭和7年4月1日に柏野尋常小学校西春別特別教授場として教員1名・児童数84名で開校し、翌昭和8年11月2日に西春別尋常小学校として独立した。

その後、昭和12年陸軍省軍馬補充部が設置され、軍人約200名が定住し、児童数も117名となった。昭和18年には、児童数が285名にも及ぶが、昭和19年秋、軍馬の占める位置の低下にともない児童数も減少してきた。

昭和22年に西春別小学校と改称し、新学制により中学校を併設するが、中学校は昭和24年に独立する。昭和42年に新富小学校・三股小学校と統合、更に昭和48年には、拓進小学校と統合する。昭和54年には、父母の浄財により交通指導公園兼スケートリンクが完成する。昭和63年には、校舎が全面改築され、防音設備の新校舎が完成した。更に平成2年に講堂（体育館）が落成した。グラウンド造成工事、校舎外構工事も進められ、同年12月に両工事が完了した。

平成3年にグラウンド横に生け垣用オンコ31本を植樹。平成8年からは、「西春別よさこいソーラン」を学校の伝統化とすることが決定し、平成9年に鳴子・法被を揃える。また、平成4年からの小・中学校のPTAが中心として進めてきた「地域スケートリンク造成」の要望が通り、平成9年12月に完成する。平成22年11月に開校80周年記念式典を挙行了た。

2 地域の概要

校下地域は、およそ100戸の市外地区と200戸の点在する酪農家地区によって構成されている。地域や父母は学校に対してあらゆる面において協力的である。

しかし、当地区からわずか5キロメートルの所に駅前地区があり、役場支所や西公民館、診療所、農協、大地みらい信用金庫等の公共施設や各種団体があり商業活動も盛んであるため、住民の生活基盤は、駅前地区に依存する傾向にある。酪農経営者の多くは2代目であり、児童数は全体の7割を占めるが、離農する農家も見られ、児童数は年々減る傾向にある。

地域の生活の特徴としては、春から降雪期までは、牧草地や作物の収穫に多くの時間を費やす。更に、早朝及び夕刻の搾乳のため労働時間が集中している。

【校章の由来】

校章は、中央に西春別小学校の「西」を配置し、三角形のそれぞれの先端には、校訓の「明るく」「清く」「たくましく」を意味させ、大空に向かってまっすぐ伸びる「からまつ」のように、北国の厳しい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育ててほしいという願いをこめてデザインされたものである。

学級編成

学 年	男 子	女 子	合 計
1 年	1	3	4
2 年	8	3	1 1
3・4 年（複式）	6	4	1 0
5・6 年（複式）	4	5	9
支援学級（言語）	1	0	1
支援学級（情緒）	3	0	3
合 計	2 3	1 5	3 8

教職員構成

職 名	氏 名	本校年数	教職年数	担任	分掌
校 長	野口 泰秀	0	26		
教 頭	若松 正	1	21		
教 頭	山本 和浩	2	30		海外派遣
教 諭	町中 康一	2	12	1 年	指導部
教 諭	米谷 豊彦	3	34	2 年	教務・研修部
教 諭	三日市雅保	1	22	3 4 年	指導部
教 諭	外川 明美	6	24	言語特支	教務・研修部
教 諭	新谷 昌也	2	17	5 6 年	教務・研修部
教 諭	中山 恵子	1	32	自情特支	教務・研修部
養護教諭	池田みどり	1	27		指導部
事務職員	岩田 隼人	2	2		事務・管理部
公務補	大内 航	6	7		事務・管理部

日課表

日課	時刻
児童登校	8：00～8：15
朝活動	8：15～8：25 ★
SHR	8：25～8：35
1校時	8：35～9：20
2校時	9：25～10：10
大休憩	10：10～10：35
3校時	10：35～11：20
4校時	11：25～12：10
給食	12：10～12：45
休憩	12：45～13：10
清掃	13：10～13：30
5校時	13：30～14：15
6校時	14：20～15：05
SHR	15：05～15：15
下校時刻	15：30

・毎週火曜日は★に全校朝会（8：15～8：30）

・5校時日は、SHRは14：15～14：25

特色ある教育活動

- ・運動会時に、全校「よさこいソーラン」の取り組み
- ・敬老会などに、全校「もちつき囃」の取り組み
- ・学校菜園の活用と、収穫祭の実施
- ・全校縦割り班を活用した行事の取り組み
- ・ハッピーフェスタ、スノーフェスタの取り組み
- ・ノーペーパー発表の取り組み
- ・スキー学習、スケート学習の実施
- ・低、高学年による、街頭交通安全啓発運動の取り組み

など